

遠くて近い！ サルと私たちの暮らし

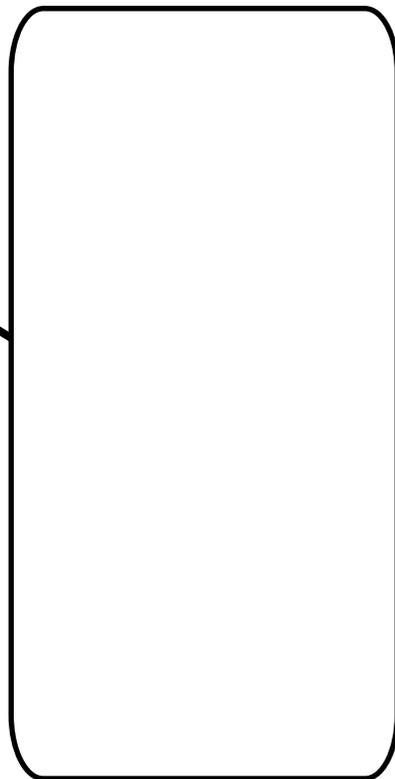
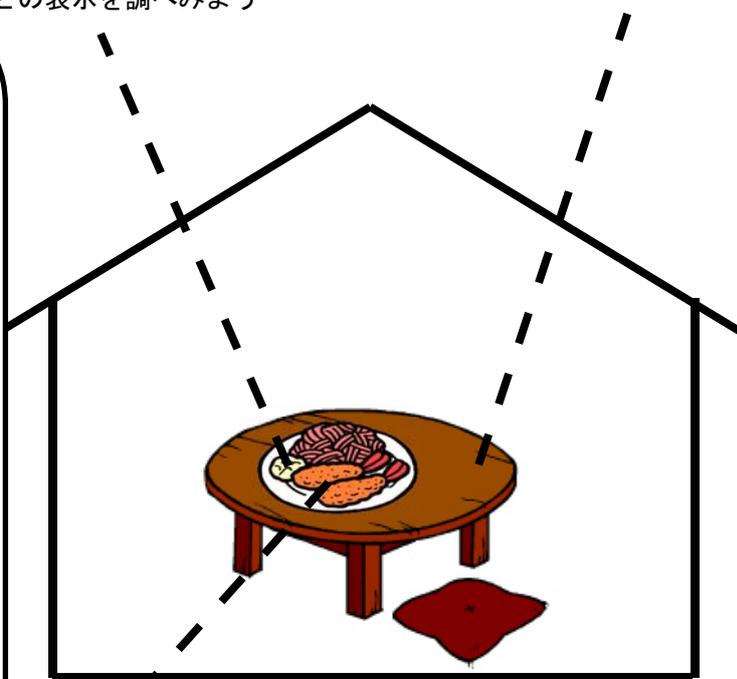
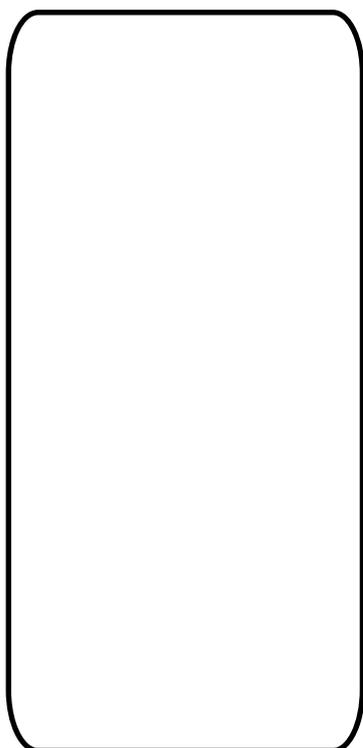
私たちの暮らしの中のさまざまなものが、実は世界各地のサルたちとつながっている、、、。そんなこと、考えたことありますか？身近なものが、どこから来たか、考えてみましょう。

エビフライのエビはどこからくる？

スーパーマーケットや魚屋に行って調べよう！
※「原産国」「輸出元」などの表示を調べよう

家具や家の材木はどこからくる？

ホームセンターになど行って調べよう！
※「原産国」「輸出元」などの表示を調べよう



植物油の元となるパーム油はどこからくる？

スーパーマーケットなどに行って調べよう！
※「原産国」「輸出元」などの表示を調べよう
※「パーム油」「パームオイル」「アブラヤシ油」などの名称で表示されていることもあります。



サル類の生息地

以下は、野生での個体数が急激に減少している、絶滅の危機にあるサルたちです。
これらのサルが、どんな国や地域にすんでいるのか、図鑑などで調べよう。

シャマン(フクロテナガザル)



シルバールトン



レッサースローロリス



サルのすむ森はどうなる？

①と②の結果から、私たち日本人のくらしと、遠い外国に生息するサルたちの間に、どのような関係があるのか、考えてみましょう。

事前学習用ワークシート

テーマ：環境

遠くて近い！ サルと私たちの暮らし

解説

■本ワークシートの実施方法■

実施場所：学校の教室にて

対象学年：小学校高学年～中学生

準備物：図書やインターネットなど調べ学習ができる環境

私たちの暮らしの中のさまざまなものが、実は世界各地のサルたちとつながっている、、、。そんなこと、考えたことがありますか？身近なものが、どこから来たか、考えてみましょう。

エビフライのエビはどこからくる？

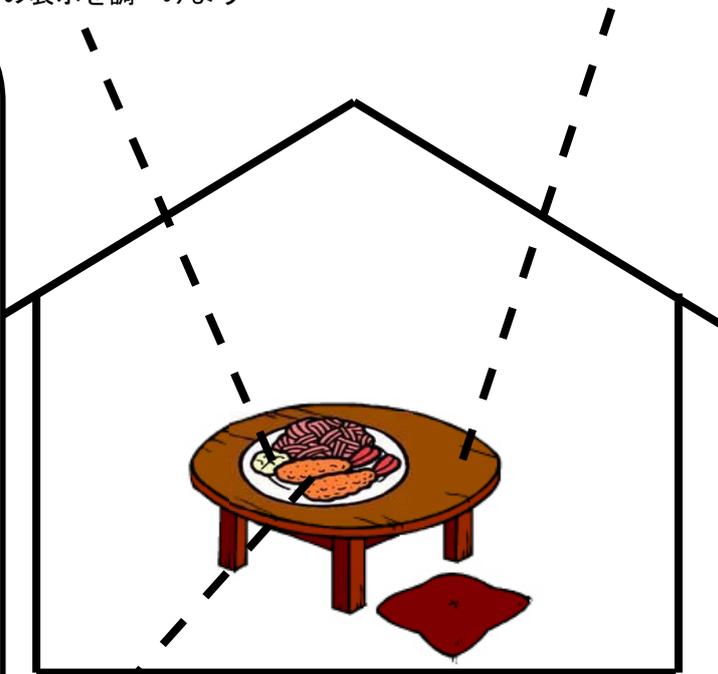
スーパーマーケットや魚屋に行って調べよう！
※「原産国」「輸出元」などの表示を調べよう

エビの原産国：

アジア諸国の沿岸部
台湾、インド、インドネシア、マレーシア、中国、ベトナム、タイ、フィリピンなど。

エビの養殖池：

養殖池は沿岸部に作られるが、原産国のある熱帯、亜熱帯の沿岸部には元々、マングローブ林が発達していた。マングローブ林は津波や高波の影響から森や人家を守り、さまざまな水生生物のゆりかごにもなっている。1980年代頃、マングローブ林が伐採され、次々とエビの養殖池が作られた。現在はかなり規制されているが、未だに伐採は一部で続いている。



家具や家の材木はどこからくる？

ホームセンターなどに行って調べよう！
※「原産国」「輸出元」などの表示を調べよう

木材の原産国

(日本への供給が多い国)：
国産材が20%、外材が80%
外材のうち、主な原産国は
1位：カナダ (9,285)
2位：オーストラリア (8,729)
3位：ロシア (7,411)
4位：米国 (6,844)
5位：マレーシア (5,888)
6位：インドネシア (4,137)
7位：チリ (3,952)

※丸太と、製材品やパルプ、チップ等を丸太換算したものの丸太材積を比較
※カッコ内の数値は単位千m³
※平成17年度
財務省「貿易統計」
林野庁「木材需要表」より引用

植物油の元となるパーム油はどこからくる？

スーパーマーケットなどに行って調べよう！
※「原産国」「輸出元」などの表示を調べよう
※「パーム油」「パームオイル」「アブラヤシ油」などの名称で表示されていることもあります。

パーム油の原産国：

日本で消費するパーム油は、そのほとんどを輸入に頼っている。日本が輸入しているパーム油の原産国は以下。

- 1位：マレーシア (99.3%)
- 2位：シンガポール (0.6%)
- 3位：インドネシア (0.1%)

※日本貿易振興機構（ジェトロ）2006年年計より引用
※カッコ内の割合は、金額（円）で比較した値

パーム油の原料の生産：

パーム油はアブラヤシの実が原料。熱帯雨林やマングローブ林を切り開いたプランテーションでアブラヤシを栽培する。
※「パーム油」はアブラヤシを原料とした植物油。
ココヤシ等を原料とした「ヤシ油」とは区別が必要。

サル類の生息地

以下は、野生での個体数が急激に減少している、絶滅の危機にあるサルたちです。これらのサルが、どんな国や地域にすんでいるのか、図鑑などで調べよう。

シャマン(フクロテナガザル)



国や地域:

スマトラ島、マレー半島

生息環境と特徴:

森林に生息。
長い腕を使い、腕渡り(ブラキエーション)で移動する。
葉や果実を主に食べる。

シルバールトン



国や地域:

タイ、マレー半島、スマトラ島、ボルネオ島など

生息環境と特徴:

森林に生息。
生まれたばかりの赤ん坊は金色をしており、3か月ほどで親と同じ銀灰色になる。
木の葉を主に食べる。

レッサースローロリス



国や地域:

インド、ベトナム、スマトラ、ボルネオ、フィリピン

生息環境と特徴:

森林に生息。
夜行性で、夜の森をゆっくり移動し、果実や木の実、昆虫などを捕まえて食べる。

サルのすむ森はどうなる？

①と②の結果から、私たち日本人のくらしと、遠い外国に生息するサルたちの間に、どのような関係があるのか、考えてみましょう。

「遠い外国」でも「近い」！！ 私たちの身の回りを見直すと、外国から輸入されたものがたくさんあります。原産国では輸出物を大量生産するために森林が伐採され、サル類をはじめとする多くの生物が生息地を失っています。遠いようで近い関係に気づいてください。以下のような項目を発展学習の参考としてください。

生息地減少の原因 木材を得るため、またエビ養殖池やアブラヤシのプランテーションをつくるための森林伐採がサルたちの生息地を奪っています。また伐採のための道路が生息地を分断したり密猟を容易にするなど、付随的な影響もある。

ワシントン条約 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」。付属書Ⅰに記載された動物については、研究等の理由を除き全面的に国際取引禁止、付属書Ⅱに記載された動物は許可書が必要となる。詳しくは・・・<http://www.cites.org/> (英文)
スローロリス、オランウータン、テングザルは全て付属書Ⅰに記載されている。

IUCNのレッドリスト 絶滅のおそれのある野生生物のリスト。環境省や各自自治体などでも作成している。詳しくは・・・<http://www.iucnredlist.org/> (英文)
スローロリス LOWER RISK (LR)、スマトラオランウータン CRITICALLY ENDANGERED (CR)、ボルネオオランウータン ENDANGERED (EN)、テングザル ENDANGERED (EN)

FSCの森林認証 Forest Stewardship Council、森林管理協議会)が森林環境保全や地域社会経済に配慮された木材を認証し、FSCマークを付与している。私たち消費者も「選ぶ」ことで森林保全に関与できる。

フードマイレージ 食料の輸送距離のこと。身近な生産地で作られた食料を利用することで、輸送のエネルギーを少なく、生産地の環境変化や安全性に配慮して食糧生産することができるというキャンペーン。